

# 回 会 報

152号

新日本美術協会

## 第三十九回新日美展を終えて

実行委員長 鈴木忠義

第三十九回新日美展は十月四日〜十一日迄の七日間、委員及び会員皆様のたいなる協力のもと、無事終了しました。ここに皆様は心より御礼申し上げます。

年々、絵画、工芸ともに作品内容が意欲的で充実してきており今回は、会員は勿論、一般の作品内容の充実ぶりが顕著であり、高校生国際美術展で受賞した高校生を招待、六名の応募があり、応募者数で二百三十四名、展示数二百九十五点と三十八回展を上回り、来場者数も六千四百七十六人と六千人を超え、全体的に盛り上がりのある、充実した展覧会になりました。

作者の顔が見える展覧会にしたいと考え、委員と招待高校生につき、作品下に作者紹介を掲出しました。しゃがんで熱心に読んでくる来場者も多く見受けました。また、工芸の倉田委員の提案で表彰式・懇親会で外部審査員の中野、芳賀両先生の作品講評に併せてプロジェクトで受賞者の作品を映し出し大変好評でした。芳賀先生のギャラリートークも一般の九室より実施し、メモを取り真剣に最後まで聞いている一般出品者も多くいて、期待度の高さを実感しました。

今後とも、いろいろな試みを加えながら、魅力的な展覧会にして、沢山の方が応募し会員数が増加することを切に願っております。今年、増野支部長のもと栃木支部が発足しました。栃木からは、十名の方が出品しました。来年は、四十回記念展です。一層盛り上げましょう。

事務局  
横浜市港南区港南台  
1-39-5  
鈴木忠義方  
TEL 045-832-0504  
  
編集委員  
小高峯夫  
富岡ネム  
大石 亨  
四方公子  
早田美智子  
  
原稿常時募集  
次号平成28年2月予定

## 三十九回展総評

表彰式での講評を要約して一部を掲載

外部委嘱審査員 芳賀文治先生

個々の作品については会場で申し上げましたので、ここでは全体的なことを言います。一つは展示の仕方がとてもよかったです。9室がともに見やすく展示されている。自分の作品を全体の中で比較して見る事が進歩につながる。二つ目は、作品の表現では感動の体験、悲しい、美しい、恐ろしいというような感動体験が心に響く作品につながる。小さい時の体験が大事で美しいものに心ふるわせる生活が大切と思う。作品は感動を色と形で表現するのだが、繊細さ、ち密さ又反対の大胆さ、省略という手法を駆使する、それには日々から観察力を高め継続制作することが何より大切である。

外部委嘱審査員 中野 中先生

審査の終盤から加わったので見てなかった作品もある。文科大臣賞の河野さんの作品は人体の描写がしっかりしている、三人の構成が素晴らしく、テーブルを配置したのも効果的でよかった。都知事賞の清水さんの作品は月下の桜が素晴らしい韻律を醸し出し、霧の宮嶋さんの雪景は何げない民家や木立の風景がとてもいい情感が出ている。

工芸部門では都議会議長賞の山崎さんの作品は豊かなフォルムとふくよかな色彩構成が素晴らしい。

今回はプロジェクト等新しい試みが見られ、展示会場もなんとなくいい雰囲気を感じられた。

## 三十九回展審査所感

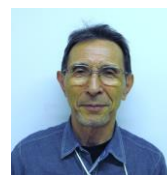
副審査委員長 絵画部 山下利隆

内外の審査委員の皆様、二日間にもわたる清真な目で二五二点もの作品をご審議いただき有難うございました、又お疲れさまでした。で、私が一番手を挙げた絵は下手でもその作者が嘘のない絵を素直にしっかり楽しく描き表したのかな、と思われる作品です。上手にこしたことはありませんが・・・。来年の四十回展に向け、八重の桜に負けないような、美術界が涙するような絵が描けたらいいね。



芳賀先生のギャラリートークに大勢の人が熱心に聞き入る

## 新日美代表 就任挨拶



新日美代表  
森屋治三

私は、六月の定期総会において代表に選任され、就任いたしました。当会は昭和五十三年(故)中尾不二夫初代会長他六名の方々により「民主的で公正な運営と自由な気風の作家集団を創る」ことを趣旨として設立され、美術公募団体として発展してまいりました。私はいま改めて原点に思いを致し、創立の趣旨を念頭におきながら務めてまいり所存です。

公募団体展としての主な目的は、芸術文化活動の促進、裾野拡大、質の向上、作品・作者とのアートコミュニケーションを図る等々と言われておりますが、先ずは、何よりも魅力的な展覧会ではなくてはなりません。そのためには、公募展を目指している作家、地域・地区で文化活動にいそしんでいる方々が進んで出品し、多種多様な作品と来場者の方々がともに喜び合えるような展覧会としなければならぬと思っております。私はじめ会員一人一人が創作活動に真摯に取り組む作家集団として名実ともに充実していくことが、また運営サイドにおきましても、いまなにをなすべきか、常に問題意識をもつて対応することが肝要であり、これが真に魅力的な新日美展となる最も正統な道と思っております。

最後に、来年の第四十回記念新日美展では、四十年に亘る歴史の一頁を飾る展覧会になりますよう皆さんとともに精進したいと思っております。どうぞ多大なご支援ご協力をお願い申し上げます。